

明日香村小委員会委員による現地視察の結果について

1. 視察日

平成30年11月8日(木)

2. 出席者

小委員会委員:池邊委員長、楓委員、中井委員、丸山臨時委員、森川専門委員、
三浦専門委員、吉兼専門委員

そ の 他:国土交通省都市局、近畿地方整備局、奈良県地域振興部、明
日香村総合政策課 等

3. 視察先等

- ・ 「甘檜丘」より明日香の全体像を視察
- ・ 「高松塚古墳修復施設」、「飛鳥宮跡」、「飛鳥京苑地」、「国営飛鳥歴史公園(キトラ古墳周辺地区)」など文化財の保存・活用を行っている事例
- ・ 電線類地中化を行っている「岡地区」など景観の維持及び向上に関する取り組み事例
- ・ 棚田オーナー制度を実施している「稲淵地区」などの農林業振興に関する事例
- ・ 市街化区域住宅地整備を行っている「御園・檜前地区」などの地域振興に関する事例
- ・ 小委員会委員による意見交換を実施

社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 歴史的風土部会
明日香村小委員会 現地視察 意見交換会
議事概要

日 時：平成30年11月8日（木）

場 所：国営飛鳥歴史公園事務所視聴覚室
16時10分～17時10分

A委員： 本日の現地視察において、農村景観の保全という観点から、遊休農地に置かれたままのハウスなどが気になったほか、竹林が繁茂している状況が村内各所で見受けられ、改善の必要があると考えられる。景観保全に関しては、ナショナルトラストや里山クラブが活動しているとのことだったが、行政以外の団体による緑地保全の体制をしっかりと構築する必要があるのではないかと。私が関わっている奥大和地域では、明日香村よりも深刻な遊休農地の問題が発生しており、関係人口の増加が必要となっている。明日香村の中だけで問題を解決することは難しいので、周辺地域や外部の力も入れていくことが必要である。

B委員： キトラ古墳周辺地区に飛鳥時代の住居をモチーフにした構造物をボランティアでつくったが、今は風景になじんできている。飛鳥の歴史については、宮跡などの遺跡に着目されがちだが、飛鳥時代の庶民の生活文化についても、知ってもらうことは必要ではないか。

明日香の歴史を楽しく分かりやすく見せ、体験できる装置がまず必要であり、それをつくるのは、村民である。また、今後も引き続き歴史的風土を保存する上では、住民が楽しく快適に過ごせることが重要であるほか、文化を大切にすの気持ち醸成することで、明日香の方々が地元に住むことに喜びを感じてもらうことが必要。私も住み始めた頃に比べて、明日香の風景等が当たり前になってきている。住民が村の魅力を理解し、その価値を発揮できるように取り組む姿勢をつくることこそが重要である。

高松塚古墳壁画などの貴重な古墳壁画が残されていることやこれまでの修復技術を活かして、大学共同研究施設を用意し、海外留学生も学ぶことのできる環境を整備するのはどうか。平城宮跡周辺で行っていることを明日香でも取り入れることは、まさにまるごと博物館構想にも合致するのでは。

また、村内の交通機関は、ルートや便数が少ないので、充実させてもらいたいほか、自動運転の実験を行うなど、新たな交通手段も視野に入れて充実を図ってほしい。

観光に関しては、個人旅行がオーバーユースにならないように、事前に検討を進めておくことが必要ではないか。

C委員： 今回久々に明日香村を訪れてみて、村内の風景が殆ど変わっていないことを実際に見て、明日香法の成果を実感した。

今回視察していないが、飛鳥資料館の入場者数は減少傾向である一方、キトラ古墳

周辺地区は入場者数も増えているということだが、飛鳥資料館は有料で、キトラ古墳壁画体験館は無料という差もあり、飛鳥資料館・万葉文化館・国営公園の活用がちぐはぐな印象を受けた。国・県・村が連携して、明日香らしさを一体的に感じる・学ぶことができる工夫（例えば共通チケットの発行など）が必要ではないか。

明日香村の風景が変わっていないことは良いが、板蓋宮の状況が全く変わっていない。この数年で色々と発掘されているので、復元整備を進めてもらいたい。

D委員： 私が入社した当時は、日本の歴史を知るには、まず飛鳥について知識を持つことが当たり前であった。だが今は修学旅行も多様化してきており、皆さんが思っているよりも、飛鳥の奥深さなどについて知らない人も多いのでは。まず前提として、明日香村の認知度やどのようなことが期待されているのか等の調査が必要ではないか。

オーバーツーリズムへの対策としては、事前受入れ体制の整備や集客数の目標設定が必要であり、明日香村の場合は、例えば120万人が気持ちよく過ごせるような環境整備が適切ではないか。また、観光客数よりも宿泊数を重視した観光施策の検討が重要である。

道の駅は地域のショーウィンドウとしての役割が求められている。明日香村にはぜひモデルケースになってほしい。

資料館などについては、ぜひ学割などで学生も行きやすい工夫をしてもらいたい。

E委員： 観光客が明日香村内に滞在出来る時間は半日～1日くらいではないか。今回久々に訪れたが、甘樫丘で村長から飛鳥の歴史に関する全体像についてレクチャーがなければ、明日香村がどういう場所なのか分からなかった。村内の各スポットの説明は多少整備されているが、総合的な説明が不足している。駅の総合案内所などが上手く活用できれば良いが、国営公園も敷地内の説明に留まっている。明日香村の総合的な説明を受けたあとに、行きたい場所を選ぶことができるオーダーメイドの旅の作り方ができるとよいのではないか。村内観光のコンシェルジュがいると一番良いが。

村内交通機関の充実が必要だが、歩けない距離でもない。上手く村内を歩いて回れるような仕組みが必要であり、サインがまだ不十分。韓国では、オルレも盛んに行われてきており、このような取組を参考に歩くための装置を考えることが必要である。

村周辺は都市化されており、生活に必要な施設は村外に充実していると思われる。日常生活については、周辺自治体を含めて一体的に考えることが必要である。

村内の景観は良好に守られているが、昭和40年代につくられている建造物をどう扱うのかについて、建替が迫りつつある状況のなか、そのままの土地利用をするのかどうかも含めて、検討が必要ではないか。空き家化も進んでいるということなので、ビジョンを持つことが重要である。

F委員： 先程のE委員からご指摘のあった周辺自治体との連携については、平成16年に議論があったものの、明日香村で存続して欲しいという希望が多くあり、現在の状況に至っている。また、ゴミ処理施設を周辺地域で一体化するなど、行政サービスの集約化や連携はかなり進めているところであり、代わりに観光は明日香が先導的に行っている。

若い人が移住しにくい状態になっており、特に農業に従事する若い人がいない。家

族形態も明日香法制定時から大きく変貌していることも鑑みて、今後の方向性を決めなければいけない。

(公益) 古都飛鳥保存財団については、今後どのような役割を果たしていくべきなのか、民間の発想をどのように活用していくべきか、検討を深めることが必要。公の仕事について役割分担を考える時期にきているのではないか。

観光で村内に宿泊してもらうためにナイトエコノミーに係る取組を考えていかなければいけない。

委員長： E委員からのコメントにあったように、明日香の全体が分かる拠点となる視点場が必要。そこから、ツールやルートを選んでもらって観光できる仕組みづくりをする必要がある。

四国のお遍路は信仰を目的として巡るものだが、明日香村は何を見せることが出来るのか。明日香村について認知してもらうとともに、明日香に何を求められているのか把握することが必要であるが、マーケティング調査が不足している。

移住に関しては、古民家の活用が重要である。京都の町家のリノベーション技術やデザインなどは優れており、売際には更に高値で取引される事例もここ数年で出てきていることである。若者にとってどういった住まいが求められているのか、把握することが重要である。

明日香村に必要な人材として、明日香をPRする人、建築やランドスケープのデザインを行う人、企画や全体のコーディネートをする人等が不足しており、村や民間団体等との連携が必要である。新しい若い人材の確保に力を入れるべき。

10年後の明日香の将来像が見えていない。世界遺産を目指すのか否かが不明確であり、それによって短期的・長期的な目標が変わってくる。

明日香村には、主に大阪・京都・奈良市内からアクセスしてくるルートがあるが、それぞれのユーザーの特徴を捉えられていない。ターゲットと観光客に対してPRする面を考えることが必要ではないか。